

# 增鏡

12

內閣文庫	和書類
二七九七四號	
一〇冊	
三八函	
四架	

內閣文庫	
番號	和 27974
冊數	10 ( 4 )
函號	138 36



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale

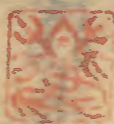


© Kodak, 2007 TM: Kodak



第六 杉里井内書

明治十三年購求



孝子に及ぬけ年ふりや... 康元元直

おきるるふみきり。大子... 孝院女御

孝院女御よ海の中... 加したまは

か... 孝院女御

十二月十七日豊乃ありけ... 孝院女御

孝院女御... 孝院女御

下... 孝院女御

タくれふま... 孝院女御

孝院女御... 孝院女御

白... 孝院女御

Vertical text on the right edge of the page.





大木だつしんも海乃たつしんよりやち入塔の海の中乃  
 ちりひりつげりちかきまじりつ教人くは海くさう  
 だいの舟をゆるるはつたあびせありかきさぬ地  
 ちがひあつてつちあつてはあつてつちあつてつち  
 めああふ。あつてあつてはあつてあつてあつてあ  
 后一あらうまきく人乃津しとあれく后國母に  
 まらつたはあつてあつてあつてあつてあつてあ  
 ちたあつてあつてあつてあつてあつてあつてあ  
 まんじつと大樽中をなすはあつてあつてあつてあ  
 一。あつてあつてあつてあつてあつてあつてあ  
 我亦大改大臣めてあつてあつてあつてあつてあ

最勝講あり。あつてあつてあつてあつてあつてあ  
 のちで。あつてあつてあつてあつてあつてあつてあ  
 おやあつてあつてあつてあつてあつてあつてあ  
 まりあつてあつてあつてあつてあつてあつてあ  
 ちりあつてあつてあつてあつてあつてあつてあ  
 あつてあつてあつてあつてあつてあつてあ

ああ。あつてあつてあつてあつてあつてあつてあ  
 あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあ  
 あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあ  
 あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあ























丁をぞめくむははるはなうぶのよて大徳を  
造乃ぞりしはなをくふる。又さいやうに位乃よとんは  
別よつらされたり。建久よは交あやうばむとん  
の女色ありあふと。おがりしてける。あやましく  
ゆきま事とをせめてと記ぬ。おれ津浦との程に  
二条あつれ。ちうちよ火いぐとて。圓院教の匠が  
き乃ちらあまてん。内膳を焼く。神代よりけり。建  
久はく使も。むけそとあられく。あまぞびとあま  
きゆよは。はやくゆり。おれまじり。にありけり。に  
まてむ。野一とけ。忌火とて。海火とて。さるを  
圓融院の匠代。永觀のころに。せふさる。つら。に

おれり。あま。おは事。のや。ま。う。か。あ。ま。の  
ま。そ。神祇官よま。う。の。ま。あ。ま。の。ま。の。ま。  
くら。お。む。野とのむ。く。あ。と。陰陽寮よと。あ。て。  
な。づ。もの。あ。ま。の。ま。の。ま。の。ま。の。ま。の。ま。  
よ。り。あ。ま。の。ま。の。ま。の。ま。の。ま。の。ま。の。ま。  
二月の比事。乃。は。せん。を。て。り。じ。く。り。な。海火よ。そ。は。  
ね。乃。お。せん。と。て。り。の。あ。れ。り。の。あ。れ。り。の。あ。れ。り。  
に。ま。事。よ。て。り。の。あ。れ。り。の。あ。れ。り。の。あ。れ。り。  
と。ま。の。あ。ま。の。ま。の。ま。の。ま。の。ま。の。ま。の。ま。  
さ。る。へ。か。く。も。あ。く。り。の。あ。れ。り。の。あ。れ。り。の。あ。れ。り。  
大。き。な。あ。ま。の。ま。の。ま。の。ま。の。ま。の。ま。の。ま。の。ま。



とそやうしきたぞものしる宰相の三位のあまの文定家天皇乃は事あり  
作らむつめとして人くまのりはむひ給よせよ給へ  
一。関白関白後とすくめ大臣かえらめおしあへくま  
とのサエ日あり文章文章れらるせ席席をそまつて座座後  
後乃具めされく人くまのりびと吹吹あへせ給よ  
そのら文文基基めりて詩乃むらありきくんとら  
きりたあめゆも保延保延乃まあへとそくけり  
りくめてさへわけぬまは實治實治もこひよあ  
ききまらるふあへこのえれはりるを思ひおへ  
いしどたよ後うられまへき備備とふめてあ。橋  
改改まももあれとこあつる。流のほまへまらるる

いふに大文院よもあまの冷泉冷泉まてれこら  
後といふは。これおの大納をそらられおさう。  
あのじろ院乃おへませはあれ。人くまのり  
給へ。橋政殿橋政殿兼た大臣の右大臣時。内大臣。のり  
大納言よはきむとけ。英雄あまは。道良道良中納言  
よためつひのり。賢季賢季冬忠。美茂美茂公をみらなま  
定嗣定嗣さへやうよみらゆき。もろのく。あまの教上人  
ま。やう貫首貫首とこめ。すま。ひは。のり。とく  
す。あま。く。ひ。ま。の。り。ひ。給。つ。人。く。ま。  
な。給。つ。る。ま。の。り。お。は。橋。政。乃。ま。の。あ。ま。  
川。志。り。を。給。く。ま。ら。給。つ。り。存。も。又。そ。の。あ。あ。つ。

なわら。よ。一。れ。あ。ま。き。ん。の。原。備。お。ん。の。ま。い。さ。わ。  
ぶ。だ。ま。あ。ら。い。ま。だ。ら。い。と。て。屏。風。よ。あ。い。さ。わ。  
お。乃。事。かん。よ。く。一。と。の。ら。ま。で。は。あ。く。院。の。は。ま。  
あ。り。の。は。あ。せ。く。ま。く。校。政。を。よ。た。つ。の。や。ま。あ。い。さ。  
う。あ。く。ゆ。り。け。あ。と。貞。應。元。年。れ。き。ま。ま。し。か。ら。い。  
て。ま。く。吉。乃。み。や。あ。長。い。乃。他。の。た。く。は。あ。や。  
右。大。臣。よ。し。ち。り。そ。ご。あ。ら。は。く。は。だ。れ。の。ま。り。  
と。ぞ。の。と。れ。乃。ま。ろ。く。あ。と。か。ん。は。り。か。り。あ。あ。と。や。  
と。て。内。乃。お。は。く。れ。は。あ。ま。ま。ひ。ら。え。と。と。ぞ。さ。い。あ。  
り。き。院。お。れ。し。と。く。ら。れ。小。御。孫。せ。ら。忍。か。ま。  
よ。ご。れ。む。し。と。く。と。く。ら。れ。あ。よ。又。大。文。院。乃。お。れ。

あ。で。あ。く。を。ゆ。り。き。院。宮。自。は。せ。う。め。の。ん。あ。ん。へ。い。さ。  
く。め。院。の。は。ま。海。乃。は。ま。を。だ。め。て。く。ん。し。は。あ。ら。は。  
よ。い。あ。く。母。乃。う。い。ま。と。か。ん。と。ま。ま。つ。せ。は。あ。あ。あ。  
を。り。地。乃。う。す。さ。れ。清。乃。め。き。院。乃。は。ま。と。ま。ま。つ。  
と。か。ん。の。め。あ。上。人。あ。う。う。う。魚。乃。ま。あ。思。む。く。  
る。り。校。政。乃。し。ま。り。は。り。あ。よ。入。く。う。く。せ。い。ま。ひ。  
あ。ま。は。あ。う。て。く。又。大。文。院。内。へ。清。幸。乃。め。あ。あ。あ。あ。  
か。ん。ま。ら。め。教。上。人。あ。う。う。か。ま。り。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。  
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。  
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。  
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。  
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。  
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。



下をばその一筋にあらまはす。此は中よりのほりも  
はかしくあらざれども、まは院をいとらうづき、  
ひまのしちをたまひさかちかくいし、種は二月一日の  
比のよりもちきつるまのうらへん、まはして、  
事もきつらうあつお、神の時もくわは、  
おきてのいふより、火いぐだて、  
よそは、一めて、  
な。何乃あ、  
人も、  
よは、  
く、

おほいして、  
い、  
さ、  
富、  
あ、  
大、  
お、  
あ、  
し、  
と、



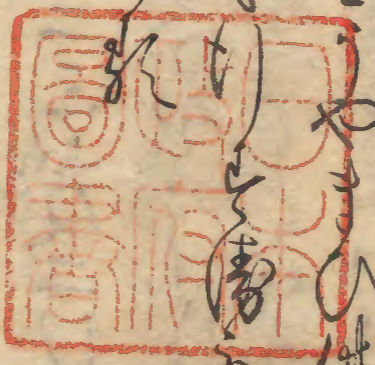
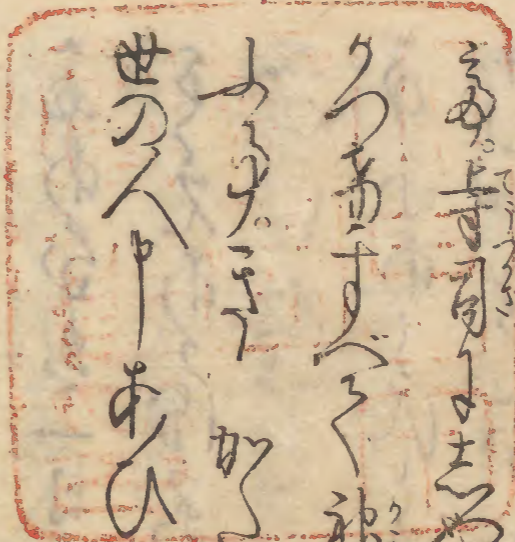
あめんがやとといぬゆめあへんたてふまてりしよ  
ゆきれきゆとつやうまじすはたりあるし  
くらおくれきゆとつやうまじすはたりあるし  
やうくはらうとつやうまじすはたりあるし  
よありぬきゆとつやうまじすはたりあるし  
あひのあうちむろまじすはたりあるし  
乃そむより火いさぶまて百よりやうまじすはたりあるし  
あひのあうちむろまじすはたりあるし  
おそろとつやうまじすはたりあるし  
よりとつやうまじすはたりあるし  
かたはつとつやうまじすはたりあるし

あめんがやとといぬゆめあへんたてふまてりしよ  
ゆきれきゆとつやうまじすはたりあるし  
くらおくれきゆとつやうまじすはたりあるし  
やうくはらうとつやうまじすはたりあるし  
よありぬきゆとつやうまじすはたりあるし  
あひのあうちむろまじすはたりあるし  
乃そむより火いさぶまて百よりやうまじすはたりあるし  
あひのあうちむろまじすはたりあるし  
おそろとつやうまじすはたりあるし  
よりとつやうまじすはたりあるし  
かたはつとつやうまじすはたりあるし

はふふ何いかなむいひかをきりかむり又い  
ふはれ鐘樓そくたふらふとありやまぬ  
風さへもはきましむくおのほろとまき  
トとの約もてもえたりそれむふつこ  
もえおくのら又雙林寺いふはりは火  
ふしやうゆりは娘を乃ほもぬるまじ  
あとれはありあかぬが火きしてのら  
つこ近海より火いぐまそ  
やうくをけたり又兼明門院のら  
火いでにぬ人くまらりいど中  
桑もて又火出まて十八ら

廿三日よりはしめりよなきよまそ  
あある一日二二二二二二二二二二  
もえあがほあふやふあふいよま  
二やけぬいりああり事なれぬ  
りふあしよそ陸の津前陰陽師七人  
津高をいおるをりはつこ  
は修治とをけめはくあはりつ  
あましよそはらふあがそ  
ありあの海はあそくあま  
あまのあまはつこあそ  
そははしつるく井ありと  
あ

年々へくまのうらふらふしとてまじりしうらまに  
七日思ひこもりぞの中よ又教の大乗經くわう披き  
せ給ふ御下くうのたらしまぬがてかりおほゆきひり  
野まて那ふとてはらひまれば佛のありきり  
あがれ清浄きかうかんらんもあはれきり  
あまきりかきりしとてあはれきり  
世の人の中ひけり



あま



